



中国青年代表団 高島市を訪問! 9/23

日中青年定期交流で来日中の、中国の青年代表10人が高島市を訪問され、社会就労センターアイリスのBDF製造プラントをはじめとする環境関連施設などを視察されました。(政策調整課)



ニイハオ! 中国駐大阪総領事館訪問 9/12

高島地域国際親善協会の研修事業として、「中華人民共和国駐大阪総領事館」を訪問し、莫領事から中国の実情について楽しく話を聴くことができました。(高島支所地域振興課)



中国文化を味わう会 9/22

桜美林大学の先生を講師にむかえ、中国茶、論語、京劇などの中国文化に触れました。(社会教育課)



馬方又左衛門チャレンジウォーク

藤樹先生の弟子「馬方又左衛門」が、客の忘れ物の二百両を届けるために歩いた同じ道のりを、高島子ども藤樹会と高島青年塾のメンバーが歩き、来年中江藤樹先生生誕400年をPRしました。(青少年課)



古代の高島を伝えて

福井市で開催された「継体天皇フォーラム」で、たかしまトライっ子クラブの子どもたちが学習の成果を発表しました。(青少年課)



高島歴史フォーラム 「継体天皇と古代高島」 9/30

5人の日本古代史研究家がせまる継体天皇の謎の解明に、約730人の参加者が聴き入っていました。(文化財課)



たかしま棚田まつり 9/30

継体天皇時代の王のキャラクター「みおちゃん」のかかしが、かかしコンクールで棚田大賞を受賞しました。(高島支所地域振興課)

写真館 まちねた

あんなできごと、こんな人。まちで起こったホットなニュースを紹介します。ニュースは皆さんから大募集!! あなたのとびつきりを紹介してください。



▲語り・地子原朗人会有志 画・岡村康臣氏
滋賀県所蔵 サイズ・280cm×160cm

(注) 日々の生活体験やふるさとの思い出などを、絵画によって表現したもの。当時の風俗や街並みを正確に復元することを目的としたものではなく、人の印象に合わせて変形・誇張されている部分があります。

んな自分たちで作った暮らしの様子も描かれています。

1年を通して山や田で忙しく働き、苦勞を積み重ねた暮らしですが、食べるものには不自由せず、隣近所が助け合って人間が円ようになって暮らした地子原を、地域の人は「ええとこです」と言われます。

山の生業の他にも、中央には若い衆が扇子を持って踊る7月の宮踊り「ナツイサメ」や、8月の盆踊りの賑やかな様子が描かれています。また、その横には共同風呂があります。風呂のある家が少ない頃、1日に20〜30人がこの風呂を利用し、最後の人は夜の12時を過ぎないと入れなかったとのこと。今は違い、谷川から水を汲み、薪をくべて風呂を沸かさなければならず、大変な作業だったことが伺えます。

雪深い冬には、藁仕事(藁を打って草履や田蓑、縄などを作る)や機織など1年中に使うもののみ

市内の絵屏風の中でも、最も大きい部類に入る朽木地子原の「ふるさと絵屏風(注)」は、平成17年度のふるさと湖西再発見調査研究事業(県の委託事業)で制作されました。

絵屏風は朽木の集落らしく、左面から中央にかけて木の伐採、乾燥、間切り・集積の工程や、雪の上を滑らし川まで木出しを行い、大川(北川)の雪解け水を利用して筏で安曇川町船木まで運んだ林業の様子が描かれています。木出しでは、女性や子どもも木を引く作業に従事したとのこと。右面下部には炭焼き窯が、そして上部には炭俵を背負い峠を越えて朽木市場まで運ぶ姿が見えます。女の人でも15キロ入りの俵2〜3俵、男の人は3〜4俵を背負ったということで、運んだのはほとんどが女性だったということ。中央下部には暑い最中、山でホトラ(田の肥料にするための木の新芽など)を刈る姿や刈り取り後の山焼きの様子が、左上には村中で寄って猪狩りをする様子が見られます。

シリーズ
わ 環の郷
もの三十三
さ と 巡り
ふるさと地子原
絵屏風
えびやま
ふるさとと巡り⑥